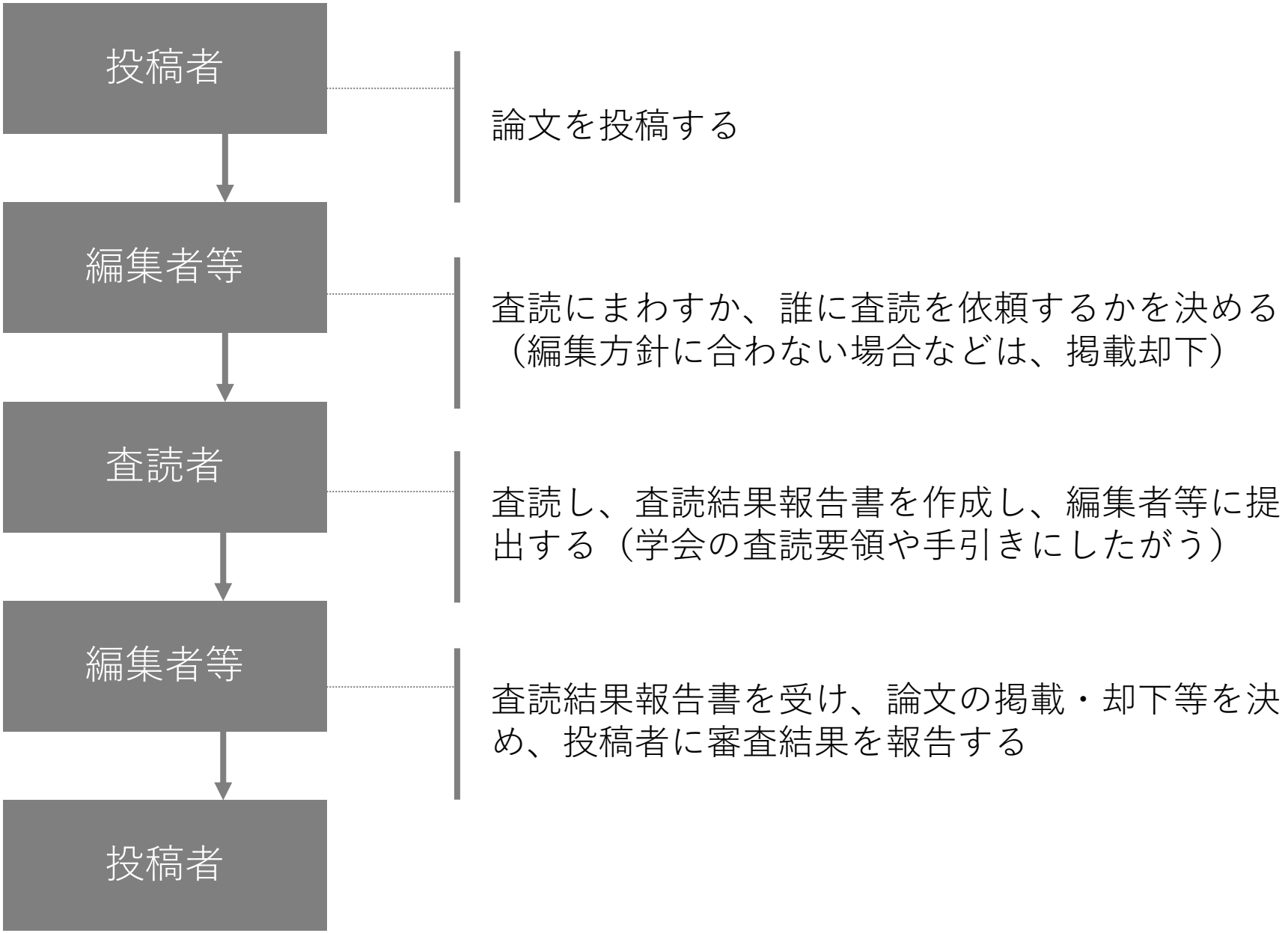
責任ある論文審査

『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』
（グリーンブック）　98-99

研究論文が学術雑誌に掲載されるまで



論文査読システム

- 研究論文は、学術雑誌に掲載されることで、その研究成果の質が担保される
- 査読を受けて掲載された論文の質や数が、研究者を評価する際に重視される
  - ⇔査読を受けずに公表された研究成果は、その質が担保されておらず、評価においても重視されない

- 査読のあり方（科学編集者評議会）

守秘義務 査読過程で得た情報を第三者に開示しない。査読以外の目的で利用しない	建設的批判 問題点について建設的な立場から指摘し、改善方法などを示す	適格性 評価できる専門的能力を持つ場合のみ査読を引き受ける
公平性・誠実性 偏見や先入観を排除し、客観的で公平な観点から審査を行う	利益相反の開示 指導的関係、競合関係など、客観的な審査に影響を与えうる利益相反を編集者等に開示	迅速な対応 迅速に対応し、査読結果の報告について期限を遵守する

査読での研究不正の発見には限界がある

・生データがない状態での研究不正の発見は困難
・査読者が、論文に疑問を提示し掲載に反対したが、掲載された事例

査読を通じて、研究不正は厳しくチェックされるべきという共通認識をつくり、維持する

・誤ったデータの利用、不十分な仮説の検討、他人の研究を尊重しない無理な論理構築などへのチェックとコメント

・二重投稿・二重出版、盗用、不正の疑念が生じた場合は、事実関係を確かめ、編集者等に相談する

参考

- 『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』（グリーンブック）98-99